

次世代への祭りの伝統継承

- 京都府南丹市美山町上げ松の事例 -

佛教大学社会学部大谷ゼミ美山班

○奥田 雅也 (Masaya Okuda) 山下 雄也 (Yuya Yamashita)

土井 沙耶佳 (Sayaka Doi) 中島 弘道 (Hiromichi Nakashima)

永濱 大珠 (Taiju Nagahama) 堀 智英 (Chie Hori) 松井 宏隆 (Hirotaka Matsui)

佛教大学社会学部現代社会学科

キーワード：次世代、伝統、地域社会

1. はじめに

(1) 研究目的

京都府南丹市美山町鶴ヶ岡殿区では毎年、火伏せの神への祈りや豊作を祈願する上げ松と呼ばれる伝統行事が行われている。しかし、美山町では少子高齢化や過疎化が進んでいることから、今後、祭りの担い手不足が深刻化し、運営が困難になる可能性があると予想される。祭りは、住民間のつながりを深める一つの方法であり、住民としての集団アイデンティティの形成にも深く関係しており、多くの社会的機能を担っている。

今後伝統を継承していくためには、現在上げ松の中心を担っている高齢者世代、今後伝統を支える次世代の若者世代、新規住民、他地域の住民等の協働が必要不可欠である。

そこで、我々は美山町の活性化のための新しい協働性システムを提案する。なお、ここで言う地域活性化とは、観光客数の増加を目指すだけでなく、地域住民とボランティア等の他地域の住民との関わりが密接になることを指す。

さらに、本報告では便宜上、旧住民を美山町で生まれ育った人々、新規住民を美山町外からの定住者、他地域の住民とは美山町外の人々を指す。

(2) 先行研究

松平誠 (1980) は「祭りのスタイルは祭りを支える人々の生活と町内の仕組みを反映してできあがったものであるから、社会が移り変わるにつれて、祭りも大きく変化していく」と述べている。祭りのスタイルはソーシャル・キャピタルの問題に密接に関わると私たちは考える。この点につい

いて、稲葉陽二 (2016) はソーシャル・キャピタルを「信頼・規範・ネットワークなどの社会的仕組みの特徴」と定義し、「祭りはまさに、結束型、橋渡し型、リンキングなソーシャル・キャピタルの総合醸成装置ということになる」と述べている。

これらの先行研究から、地域の祭りに橋渡し型のソーシャル・キャピタルが醸成されることで時代の変化にあった伝統継承を行うことができると考える。

2. 対象

(1) 地域について

美山町は周囲が山に囲まれており、林業で栄えた地域である。

美山町の2018年現在の総人口は3,841人、2006年は5,029人である。殿区の2006年の総人口は124人、2018年現在の総人口は71人である。

美山町の2018年の高齢化率は46.2%、殿区の高齢化率は40.28%であり、全国平均と比較して高い傾向がある (南丹市 2018)。

なお、旧・美山町 (現・南丹市) と佛教大学は2004年2月より、教育や地域振興を目的として地域連携協定を結んでいる。

(2) 上げ松

愛宕神社神明大祭として始まった祭りで約300年前から行われている伝統行事である。毎年8月24日に美山町内4ヶ所で開催されている。これは20mほどの灯籠木 (柱松) の先端に燃えやすい杉葉などを入れた火受け (笠) を付け、愛宕神社の御幣を立てる。そこに火のついた松明を投げ込み、

火伏せの神の献火や豊作を願う祭りである。

3. 研究方法

私たちは美山町鶴ヶ岡殿区と上げ松を対象に以下の調査を行った。

①元美山町観光協会会長の神田和行氏へインタビュー（2018年8月13日）、②祭りに参加している旧住民へインタビュー（同年8月18～19日）、③上げ松の調査と参与観察（同日）。

4. 調査結果

地域住民への社会調査の結果、上げ松は殿区の住民にとって単なるイベントではなく、神聖なものであることが分かった。一方、上げ松は旧住民間で支えられているため、新規住民や他地域の住民とのつながりが希薄であり、担い手不足に繋がっている。このような状況に次世代の若者は、地域住民をつなぐ結束型のソーシャル・キャピタルだけでなく、殿区の住民と殿区外部の他地域の住民をつなぐ橋渡し型のソーシャル・キャピタルを醸成する場としても上げ松が機能することを望んでいる傾向が見受けられた。

そして、美山町には鶴ヶ岡振興組合や南丹市美山エコツーリズム推進協議会など、美山のイベントなどの情報を外部へ発信し、ボランティアを呼びこむ団体が多数存在する。しかし、地域単体のイベントなどは、地域住民が外部への情報発信のノウハウを持つ人が少ないため、他地域の住民との連携が円滑に行われていない状況である。

以上から、美山町の観光資源及び文化的価値を活かした他地域の住民との継続的な連携のシステムと、新規住民の参加を組み込んだ伝統継承が必要だと考察する。

5. 政策提言

上記の結果を踏まえ、継続的な伝統継承を目的とし、地域の活性化を図る政策提言を行う。

はじめに、美山町の魅力を発信するNPO法人の設立を行う。そこで、単なる一過性のボランティアでは終わらない、継続的なボランティアと美山

町住民との強固な関係性を築く。

具体的には、美山町でのイベントや農作業等のボランティアに参加したい他地域の住民と地域住民が協力してNPO法人を組織し、ボランティアの参加者を募る。参加者は年や季節毎など個人に合ったスタイルの登録制にする。団体の運営に必要な最低限の資金を年会費として徴収し、登録制にすることで安定的にボランティアの人材を確保する。そして、団体はDM発送やSNS・HPの運営により、参加者に対して地域行事やボランティアの参加を呼びかける。呼びかけに応じて個人が美山町に継続的に関わることのできる協働性システムを作る。参加者には美山町でのグリーンツーリズムの体験、町の名産品を提供する。

いわば、現地に直接触れるふるさと納税のような仕組みを構築する。その結果、ボランティアの人々に美山町の魅力を認知してもらい、次のボランティアへの参加意欲を高めることができる。

以上の政策を推進することで、美山町の住民は美山町の魅力を他地域の住民の視点により、再認識し、他地域へと発信する材料が増える。そして、このNPO法人を中心とした活動により、これらの試みが新規住民ならびに他地域との橋渡し型のソーシャル・キャピタルの醸成につながる。その結果、上げ松の担い手不足の解消につながり、次世代への文化継承が可能となる。

6. 参考文献

- ・稲葉陽二 2016 「都市祭礼とソーシャル・キャピタル」山田浩之編『都市祭礼文化の継承と変容を考える——ソーシャル・キャピタルと文化資本』ミネルヴァ書房
- ・八木透編 2006 『京都愛宕山と火伏せの祈り』昭和堂
- ・八木透編 2015 『京のまつりと祈り——みやこの四季をめぐる民族』昭和堂
- ・小畑紘一 2013 『祭礼行事「柱松」の民俗学的研究』岩田書院
- ・松平誠 1980 『祭りの社会学』講談社
- ・南丹市 2018 公式ページ
<http://www.city.nantan.kyoto.jp/www/>
2018年10月16日アクセス